国際交流機構だより

【グローバルリーダー教育プログラム】

グローバルリーダー教育プログラム（Global Leader Education Program、以下GLEP）は、国際社会や地域社会で活躍する「グローバルリーダー」になるための素養を身につけた人材を育成する副専攻です。すべての学部から応募することができ、今年も選考を通過した61名の学生が、GLEPに加わりました。GLEPで実施する科目には、ネイティブ講師から実践的英語コミュニケーションやプレゼンテーション技術を学ぶ英語科目のほか、グローバル企業や国際機関での豊富な経験を持つ講師による講義、国内フィールドワークや留学生交流事業などの課外活動、そして春と夏に実施する海外研修などがあります。

オリエンテーションキャンプ・グループ発表の様子

9月23、24日には、一年次GLEP学生が初めて顔を合わせるオリエンテーションキャンプが行われました。兵庫県自治研修所での一泊二日のプログラムは、二年次GLEP生の有志から構成される学生実行委員により企画・運営され、TOEIC英語模試に始まり、数回のアイスブレイクを行いながら、違うキャンパスに通う学生同士でグループ活動を行いました。新GLEP生は最後に、「生まれ変わるなら何になるか」についてグループ発表を行い、今後のGLEPでの活動意欲を高めました。

ホームステイ先家族との一枚（ジンバブエ研修）

また、オリエンテーションキャンプに先立つ8月末から9月中旬にかけて、GLEP海外研修（科目名「グローバルプロジェクト入門（海外）B」）が実施されました。今年の夏は、GLEP生を中心とする二つの学生グループが、ジンバブエとベトナムを、それぞれ一週間から十日程度訪問しました。ジンバブエでは、電気もガスもない農村地域でのホームステイを含む刺激的な活動を行い、ベトナムでも現地学生との交流や、現地大学の授業でのプレゼン発表など多くの活動を行いました。帰国後、参加学生は、オリエンテーションキャンプで研修内容を報告し、それぞれ、大きく成長した姿を見せてくれました。

【交換留学】

兵庫県立大学では、大学間交流協定に基づく交換留学プログラムを実施しています。新たな派遣先となった台湾の国立嘉義大学での留学を終え帰国した学生からの元気な便りをお届けします。

○国立嘉義大学（台湾）

奥田千尋さん（国際商経学部、2022年9月から2023年6月まで交換留学）

国立嘉義大学への交換留学は私の代が第一期生であり、コロナの関係も相まって出発前から多くのトラブルに見舞われながらも無事留学生活を終えることが出来ました。

振り返れば中国語もままならない中、

クラブ活動の様子

台湾での留学生活がスタートしました。嘉義市は台湾の中でも都市部から離れたのどかな町で、当初は英語も通じない環境に不安が大きかったことを覚えています。

しかし、語学堂に通いながら中国語を少しずつ習得していき、ルームメイトやクラスメイトと会話が出来るようになりました。3か月もすれば友達もでき徐々に環境に溶け込むことができました。現地では積極的に外に出て活動することを心がけ、クラブ活動にも参加しました。クラブでは現地の小学校に泊まり込み、小学生向けのイベントを開催しました。

周りの友人に助けられながらも、貴重な経験を積むことが出来たことを誇りに思います。

この10ヵ月の間、毎日新しい経験や成長を感じることが出来ました。私の人生において忘れられない思い出を作ることができ、留学してよかったと心から思います。

【国際交流センター主催 日本文化ワークショップ報告】

令和5年6月11日（日）実施

「文楽鑑賞・大阪城見学」

小雨が降り続くあいにくの天気でしたが、県大バスまたは公共交通機関を利用して37名（留学生9名・日本人28名）が大阪城公園と国立文楽劇場を訪れました。大阪城公園散策、昼食、大阪城から文楽劇場への移動は、予め決められた留学生と日本人学生で構成された5人程度のグループごとに独自の計画を立てて行動することにより、英語による活発なコミュニケーションを図ることができました。

「仮名手本忠臣蔵」文楽鑑賞

国立文楽劇場では、「仮名手本忠臣蔵」の英語公演を鑑賞しました。これは国立文楽劇場が年に一度、海外の方を対象に実施する英語字幕付きの特別公演で、本学からの参加学生のほとんどが文楽鑑賞は初めてであったこともあり、留学生のみならず日本人学生からも「日本の伝統文化の素晴らしさを実感した」という感想が多く寄せられました。

令和5年10月15日（日）実施

「剣道体験・酒蔵通り散策」

県大バスを使って伊丹市を訪れ、酒蔵通り散策、市立伊丹ミュージアム見学、そして修武館で剣道を体験しました。天候にも恵まれ、23名（留学生14名、日本人9名）が参加し、日本の歴史、伝統文化への理解を深めました。また、キャンパスを越えてふれあう機会の少ない留学生、日本人学生が行動を共にし、英語での交流を楽しみました。

伊丹市に到着後、留学生と日本人学生の混合グループに分かれて行動し、散策ルートや昼食の場所を決めたり、課題について話し合ったりして英語での会話を楽しみながら修武館までの道のりを歩きました。

修武館に着いてからは、道着への着替えから、礼の仕方、竹刀の持ち方に至るまで剣道における礼儀作法について説明いただきました。日本人でも知らないようなことがたくさんあり、留学生には難しかったかと思いますが、皆、熱心に聞き入っていました。

その後は、竹刀を持って構え、打ち込む練習もさせていただき、最低限の型を学ぶことができました。程よい緊張感の中、日本の精神世界の一端に触れることができ、参加者全員清々しい気持ちで修武館での体験を終えることができました。